

# OBON 2015

個人の遺留品をご遺族の元へ



誰でも一人一人に家族がいます

## あと、一年。

来年2015年は終戦70周年です。OBON2015は、その2015年までに、戦場からの記念品として持ち出された遺留品を出来るだけ多く遺族に返還するため設立されました。

このような遺留品を返還したいと願っているアメリカ人、カナダ人、元連合国の方々に向けて、ニュースレターを発行することにしました。我々の活動を知っていただくために、ぜひ、このニュースレターを広めて下さい。

毎月のニュースレターでは、我々の近況やその背景などをお知らせします。興味がありそうなご友人にぜひこのニュースレターを教えてあげてください。

訳注：その後、OBON2015は、「OBON ソサエティ」と改名し、2015年以後も活動を継続することにしました。

## 目次

Page 2: OBON 2015 の歩み

Page 3: ある海兵隊隊員の視点

Page 4: 出征の日

Page 5: 調査の一例

Page 6: 寄付のお願い・連絡先

# OBON2015 の歩み

歴史に埋もれた日米の物語が、2009年5月、OBON2015を設立しました。



物語はこのような始まりです — 戦争が勃発すると、日本では、若い男性が軍へ招集されました。



各家庭では、故郷を離れ、出征する息子一人一人に、お守りを用意しました。



家族は自分の名前を小さな旗に記名し、兵士を送り出しました。兵士は、その旗を大事に持って、戦地へと赴きました。



日本軍の兵士が皆このような旗を持っていることが知れ渡ると、連合国の兵士達は挙ってこれを記念品として収集し始めました。何十万という旗が持ち去られました。



ほとんどの日本の遺族にとって、旗は夫、兄弟、父の唯一の遺品です。

そこで、OBON2015が設立されました。

OBON2015は無料で、このような旗をお預かりし、調査員や護国寺神社、政府関連機関などの協力を得ながら、日本の遺族を探します。



## ある海兵隊員の場合



日章旗を広げる典型的な若い海兵隊員（1944年）



ケン・アドステッド氏、元海兵隊第4大隊（1921-2014）



第二次世界大戦中、ケン・アドステッド氏は、米海兵隊員としてサイパンとテニアンに派遣されました。従軍中、日本兵から、家族の写真、ライフルや小道具などの「記念品」を収集しました。その中には、寄せ書き日の丸も含まれていました。何十年を経て、アドステッド氏は、寄せ書き日の丸を正当な所有者に返還しなくてはならないと思うようになりました。

アドステッド氏は、海兵隊員として最後の任務 — 自ら訪日し日章旗を返還すること — を果たし、今年の初め、静かに永眠につかれました。

我々は日本兵の遺族を探すお手伝いをした関係で、帰国直後、彼の最後の任務に関していくつか質問をすることが出来ました。

**Q:** もし、他の退役軍人、あるいはそのご子息が「日章旗を持っている、どうしたらよいでしょう」と尋ねたら、何と返答しますか？

**A:** どんなことがあっても日本へ返すべきです。遺族にとって旗はとても重要なものです。70年も経って先祖の遺品が戻ってきた時の遺族の喜びを思うと、今でも私は嗚咽を抑えることが出来ません。この遺品を返して本当に良かったと思っています。彼らは親切な愛情溢れる人々です。私は彼らに会えて本当に良かったです。

**Q:** 日本人は、この旗に関してどのような感情を持っていましたか？

**A:** 彼らがどんなに感激し感謝したか、的確に記述できる言葉を思いつきません。私も言葉では言い表せない暖かな気持ちになりました。これは一生忘れることの出来ない感情です。

**Q** これらの旗や写真を日本へ返すために、OBON2015の使命についてどう思いますか？

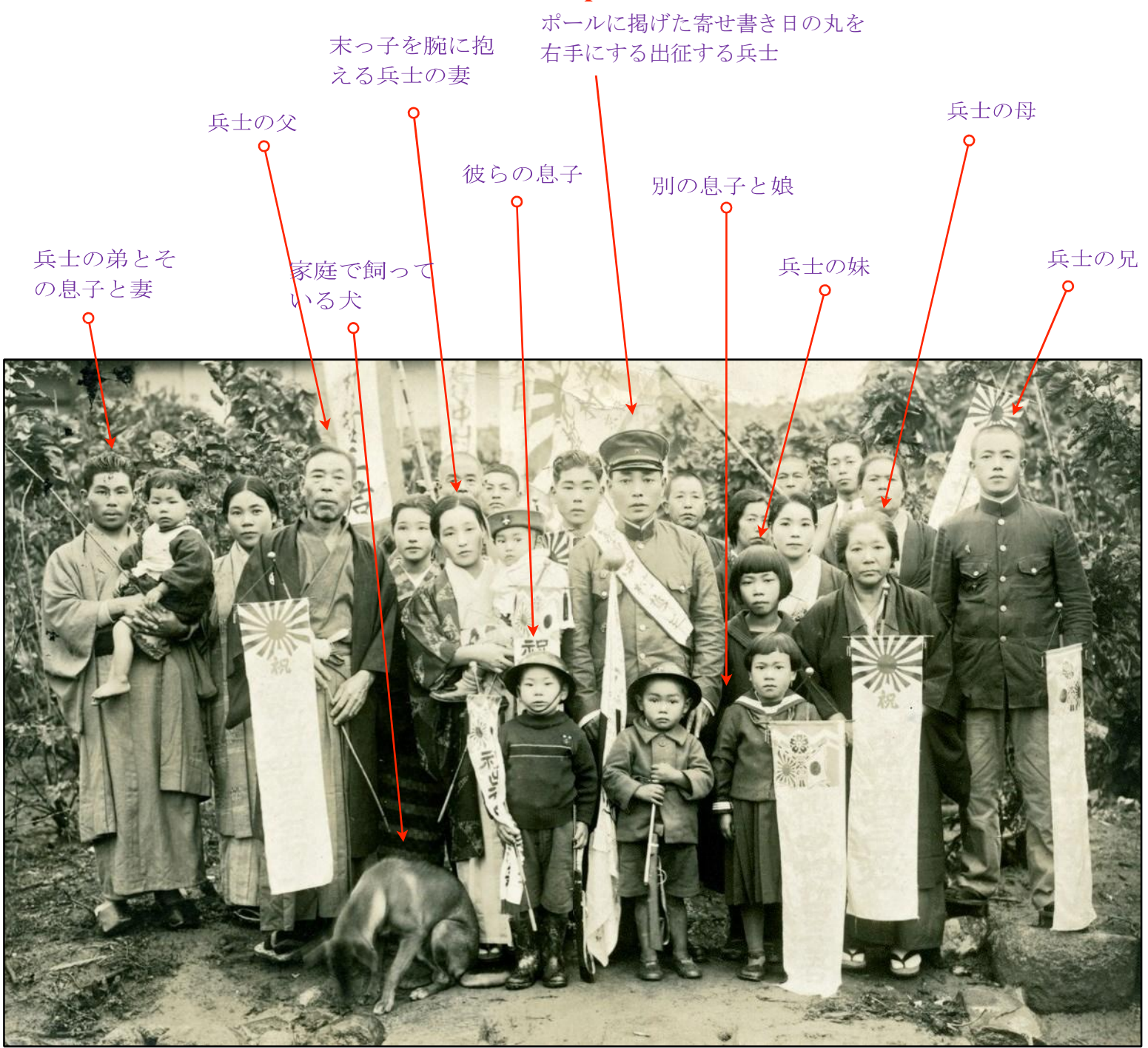
**A:** これらの遺品が日本の遺族にとってどれだけの意味を持つのか、言葉では言い表せません。全ての「記念品」を持つ方に、今すぐに返還するよう呼びかけます。日本の遺族にとってどれだけ影響のあることなのか、事前に理解することは出来ないでしょう。それは、とても素晴らしい感覚です。

訳者注：この日章旗は、現在、静岡県護国神社にて展示されています。<http://www.obon2015.com/id/2013-0822.html>  
また、返還の様子は、NHKでも放映されました。<http://dai.ly/x183m56>

# 出征の日

息子が招集されると、各家庭では全ての家族・友人が日章旗に記名しました。集合写真が撮られる場合もありましたが、多くの場合、それが今生の別れとなりました。

下記写真の本来の持ち主は不明ですが、多くのことが読み取れます。



この写真の持ち主は分かっていません。OBON2015は、身元が判明次第、写真を返還したいと考えています。

## 調査の一例

時々、遺族を探すための手がかりがほとんどない寄せ書き日の丸をお預かりすることがあります。そんな時でも、我々の調査員は豊富な経験と情熱をもって調査に取り組みます。

新しい日章旗をお預かりすると、どんな小さな手がかりも見落とさぬよう、細部に至るまで調査を行います。下記は、日章旗の作成された日付を推論した例です。



この日章旗には、多くの記名とさらには手形まであります。調査員は左上に見かけない名前をいくつか見つけました。

調査員は、映画の名前「天晴れ、一心太助」（緑丸）、俳優の名前「エノケン」（赤丸）を見つけました。



「エノケン」とは、日本で最も有名な俳優の一人、榎本健一氏のニックネームです。彼は現役時代(1934-1969)、47本の映画に出演しました。

日章旗に書かれていた「太助」とは、様々な日本文学に度々登場し、初出は400年前と言われています。

この映画版「一心太助」は、当時35歳だった黒澤明氏により監督されました。後に、彼は数々の国際的な賞を獲得しました。

榎本健一郎氏



「一心太助」の「エノケン」



黒澤明氏



この映画は、1945年1月11日に公開されました。同年2月26日、日本では従来兵役免除外とされていた、15～60歳の男性、約150万人が新たに招集されました。

これらの追加の兵士は、米軍の本土侵略に備えるためのものでした。日章旗の持ち主は、祖国を守るために命を捧げた若い兵士の一人かもしれません。

訳者注：その後の調査で、この日章旗の遺族が判明しました。ご協力者の皆様に感謝申し上げます。  
<http://www.obon2015.com/id/2014-0408-return.jpg>

## 寄付のお願い・連絡先

当団体は、皆様からの寄付により活動しています。

### 宛先

アメリカ在住の方 (501(C)3 を通じた税金控除の対象となります)

**AVA/OBON Society**  
**P.O. Box 282**  
**Astoria, Oregon 97103**

日本在住の方

<ゆうちょ銀行からの振込>

**記号：14450 番号：16577781**  
**名前：OBON ニセンジュウゴ**

<他金融機関からの振込>

**振込先銀行名：ゆうちょ銀行**  
**店名：四四八(読み ヨンヨンハチ) 店番：448**  
**口座番号：1657778**  
**口座名：OBON ニセンジュウゴ**

(「OBON2015」は、2015年の日章旗返還を目指した、OBON ソサエティの前身名です)

皆様から頂いた寄付金により、より多くの遺品を返還することが可能になります。

日章旗をお持ちの方、また、所有されている方をご存知の場合は、当団体までご連絡ください。日章旗・その返還方法に関して、ご質問があれば、ご遠慮なくお尋ね下さい。我々は日章旗の返還に、使命と情熱をもって、取り組んでまいります。

**OBON Society**  
P.O. Box 282  
Astoria, Oregon 97103  
contact@OBON2015.com

